

大阪市立 住まい情報センター

おんじや

住まいのガイドブック

2025年春号 volume
102

《特集》

1970年大阪万博が夢見た 都市の住まい

〈今月の表紙〉

1970年日本万国博覧会のパビリオン「タカラ・ビューティリオン」の模型
(タカラベルモント株式会社蔵)

・大阪くらしの今昔館 news
「浪華名所図屏風」

錦絵でみる近代の大阪
「心齋橋鉄橋図」

・コラム「おひとりさまと住まい 第2回」
おひとりさま女性と住まい

・大阪市住まいのガイド
借りる・買う・建てる・建て替える
各種住宅施策のご案内

・トピックス

誌面セミナー
住まいの維持管理 空き家の管理・利活用

特集

1970年大阪万博が 夢見た都市の住まい

いよいよ4月13日から大阪・関西万博(2025年日本国際博覧会)が開催されます。今回のあんじゅでは、開催に先立ち、1970年に大阪で開催された日本万国博覧会で取り上げられた住まいについて特集します。当時の万博は「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ、100を超えるパビリオンが出展しました。世界各国の文化や最先端の科学技術などとともに、暮らしに関する展示もありました。

55年前の万博が描いた未来の住まいとはどんなものだったのでしょうか。博覧会の歴史に詳しい橋爪紳也さんと、1970年の万博にパビリオンを出展したタカラベルモント株式会社を取材しました。



「アメリカ館でシェーカー教徒の家を見て、まったく異なる暮らしを営む人たちがいることを実感した」と橋爪さん。

世界の多様性を学んだ

当時、小学4年生だった橋爪さんは何度も日本万国博覧会(以下、70年大阪万博)を訪れて、すべてのパビリオンを巡り、スタンプやキーホルダーを集めたそう。その後研究者となっただけでなく、万博関連の資料収集を続けており、取材時に

健康的かつ合理的な 住空間が広がる未来都市

はしづめ
橋爪 紳也さん

PROFILE

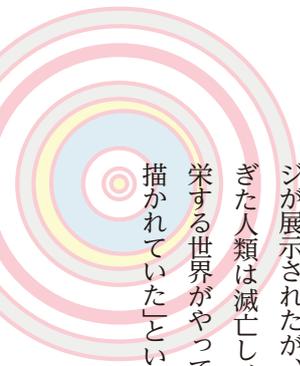
大阪公立大学研究推進機構教授。大阪市出身。京都大学大学院、大阪大学大学院修了。工学博士。大阪府・大阪市特別顧問。博覧会に関する著書多数。2025年大阪・関西万博の基本構想立案に携わる。



もたくさんの資料を見せてくれた。子どもの頃に何度も訪れた万博では「子ども心に世界各国にさまざまな文化があり、さまざまな人間の営みがあることを学んだ。外国人と出会うのも初めてで、サインをもらった」と橋爪さん。会場で見かけた外国人にサインをもらうことが流行するほど、多くの人にとって海外との接点はまだ少ない時代だった。

博覧会は世界の縮図

1970年頃の世界は、東西冷戦やベトナム戦争の真っ只中にあった。国内では安保闘争が起り、公害が社会問題となっていた時代だ。橋爪さんは



「博覧会は世界の縮図とも言われる。世界の多様性とともに、紛争や公害など同時代の問題や課題についても展示が行われていた」と振り返る。

子どもたちの人気を集めた「フジパン・ロボット館」は、「楽しいだけでなく、穏な結末が描かれていた」と橋爪さん。手塚治虫がプロデューサーを務め、ロボット化された未来の暮らしのイメージが展示されたが、「ロボットに頼りすぎた人類は滅亡し、ロボットだけが繁栄する世界がやってくる」という未来が描かれていた」という。



フジパン・ロボット館のパンフレット。楽器演奏、子守り、消防、スポーツの点数カウントロボまで登場した。

機能的で合理的な住空間

未来の暮らしや住まいは、「タカラ・ビュートイリオン」、「サンヨー館」、「テーマ館」などで展示された。

サンヨー館では、人間洗たく機(ウルトラソニック・バス)とともに未来のキッチンも人気を集めた。フラワーキッチンと呼ばれ、ボタン操作ひとつで、調理から、配膳、食事、収納までできる革新的装置だ。

タカラ・ビュートイリオンにはカプセル状のキッチンや応接室(P314参照)。

照などが、テーマ館には住宅カプセルが展示された。

橋爪さんは「工業化社会が発展し、大量生産の利便性と合理性を住まいにも取り入れた。当時の私の住まいは、在来工法の木造建築で、アルミサッシもなく、風呂やトイレはタイル張りだった。故郷である大阪の都心は土埃が酷く、河川や大気汚染もひどかった。万博で見た工場生産された住宅は、機能的かつ衛生的で驚くばかりであった。SF小説に出てくる空想的な未来としか思えなかった」と話す。

住まいにおける情報化の萌芽

生活産業に携わる企業が共同出展した生活産業館では、「朝な夕な」をテーマに朝起きてから寝るまでの暮らしにかかわる商品などが展示された。パビリオンにはレストランエリアもあり、当時は珍しかった世界の民族料理も話題となった。

サンヨー館には「万能テレビ」ともいえる装置「家庭のインフォメーション・システム」も展示された。テレビ、ビ



※ フラワーキッチン



※ ウルトラソニック・バス



※ 家庭のインフォメーション・システム

デオ装置、テレビ電話、電波新聞などの機能がボタンひとつで画面切り替えができ、家庭にいながらビジネスや勉強、買い物ができるテレビだ。「今ではスマホ一つでいろんなことができるが、当時はコントロールパネルで複数の機器を操作する設定だった。ユニットバスやシステムキッチンなどが定着してきたが、カプセル型住宅は一般的なものにはなっていない。1970年に想像した未来と現実は少し違っているというのは興味深い」と橋爪さんは語った。

1970年日本万国博覧会の概要

会 期:1970年3月15日から9月13日 183日間

テ ー マ:「人類の進歩と調和」

展示施設:118館

入場者数:6421万8770人

万博記念公園

※写真提供:
パナソニック ホールディングス
株式会社

QRコード
あんじゅはウェブサイトでもご覧頂けます。

美と健康×未来の住まい

タカラ・ビューティリオン

タカラベルモント株式会社 広報室

榎井 貞次さん
 久保 直美さん



お話を聞かせてくださった広報室の榎井さん(右)と久保さん(左)

前衛的な建築理論を 取り入れたパビリオン

創業100年を機にリニューアルしたという本社1階には「タカラ・ビューティリオン」の模型(表紙参照)や、70年大阪万博に関する資料が展示されている。

建物の設計を担当したのは建築家の黒川紀章。人間が新陳代謝をするよう



パビリオンの設計図(複製)が残されている。表紙掲載の模型はプレゼンテーション用に製作されたもので、実際とは少し異なる。

に、有機的に変化する建築のあり方を指す、「メタポリズム」と呼ばれる建築理論を同パビリオンの設計にも取り入れた。

地上1階から4階までは、鋼管ユニットを組み合わせたジャンクルジムのような骨組みに、四角いステンレスカプセルを配した建物だった。工場で製作されたパーツを会場に持ち込み、たった7日間で建物が完成し、建設期間の短さでも注目を集めたという。

世界各国のパビリオンなどに比べると規模は小さかったが、183日間の会期中におよそ350万人が訪れた。

美と健康は普遍的な願い

タカラ・ビューティリオンのテーマは「美しく生きる喜び」。当時発行され

た万国博手帳(*)には「人間の美に対するあこがれ、美への探究心は、国境、思想、世代を越えて、はかり知れないものがあります。その根源をさぐり、明日への夢を描くのがタカラパビリオンです」とある。

榎井さんは「美しくありたい、健康でありたいというのは人類共通の願いです。理美容や医療の現場で働く方々のサポートを通して、間接的に多くの人の美と健康を支えたいという思いが長年受け継がれています」と語った。

* 実際のパビリオンの内部。カプセル状の住まいを並べた展示フロア。左からキッチン、応接室、仏間。

大阪府中央区に本社を構えるタカラベルモント株式会社。1921(大正10)年に鑄物工場としてスタートし、理美容機器や医療機器の製造・販売などを行う。70年大阪万博では単独でパビリオンを出展した。



本社に展示されている資料の一部。中央下の写真は会期中に開催された「100人の花嫁」パレードの様子。



い方や家族構成の変化によって、組み合わせを替えられる仕組みを取り入れた住まいのあり方が提示された。興味深いのは仏間もカプセル状の部屋につくられたことだ。「創業者は信心深い人だったので、仏間がつくられたのだと思います。空間を有効活用す



※ キッチンカプセル。左手前の上にあるのがモニターと電話機。

具現化された未来の住まい

展示空間は地下1階から地上4階までであった。地下には映像や音楽が流れる劇場空間、地上1階は「楽しい生活フロア」、2階は「未来のおしゃれフロア」、3階は「ショーフロア」、4階には「未来の住まい」が展示された。

4階に展示されたのは、カプセルごとに作られたキッチンや応接室。住ま

るために、仏壇は壁に埋め込まれていました」と久保さんはいう。カプセルキッチンにはいくつもの新しい機能が組み込まれていた。モニターや電話、電子レンジなどだ。モニターにはレシピを映し出すことが想定されていたようだ。「当時の創業者との対談^(*)で、黒川紀章は人間の排泄物や台所のゴミ処理など、環境衛生について課題があると語っています。そういった意識からか、調理台の下にはゴミ処理機も備え付けられていました」と梶井さんが解説してくれた。



※ 仏間の内部。左側に見える銀色の丸い部分が仏壇。畳に座布団ではなく椅子が置かれていた。

宇宙時代の住まいを見据えて

タカラ・ビューティロンではカプセル型のヘアサロンやデンタルクリニックも展示された。「創業者には、わたしたちが携わる理美容業界の素晴らしい思いがありました。強い思いがありました。壁全体にバラが散りばめられた華やかなヘアサロンなどを提案したのもその思いからではないで



※ 壁にも床にもバラ柄が配された未来のヘアサロン。天井には自動で動く器械が設置されていた。

しょうか。また、3階のステージでは、ほぼ毎日ヘアショーを開催していました」と梶井さん。

タカラベルモント株式会社は

2025年の万博にもブースを出展する。未来の美と健康を叶える住まいについて聞くと、「宇宙で暮らすことが当たり前になっているとしたら、水が大きな課題となるでしょう。少量の水で暮らす、水を再利用する機能が発達するのではないのでしょうか」と梶井さんは答えてくれた。



「古い資料を調べ直すと、万博についての資料がたくさん出てきました」と梶井さん。

参考資料:

*1:編集・発行 ダイゴー株式会社 (1969)

*2:タカラ・ビューティロンパンフレット(乃村工藝社蔵)に掲載

※写真提供:

タカラベルモント株式会社

住まいの維持管理
空き家の管理・活用

全国的に増加傾向にある空き家。空き家を所有した場合、周辺の生活環境に影響を及ぼさないよう、適切に管理する必要があります。管理やその後の活用について考えておきましょう。

教えてくれたのは

一般社団法人
大阪府不動産
コンサルティング協会
副会長



かなもり たかくに
金森 匡邦さん

空き家のリスク

空き家となった住まいは、維持管理を行わずに放置すると建物の劣化が進みます。カビやシロアリの発生、漏電、漏水、雨漏り、外壁の劣化などにより建物価値が低下します。また、植栽が敷地の外にはみ出したり、「ゴミ」が投棄されたりすると、近隣の景観悪化や環境悪化を招いてしまいます。その結果、実害が発生すると所有者は過失の有無にかかわらず、発生した損害に対する責任を負います。

特定空家等の指定から行政代執行への流れ



維持管理をせず放置された空き家の事例。建物が劣化すると自然災害による被害を受けやすくなり、周囲に被害を与えることもある。



一般社団法人大阪府不動産コンサルティング協会提供

この制度も設けられています。「特定空家」に指定されてしまうと、固定資産税の優遇が無くなります。所有する空き家はきちんと管理することが大切です。

*1「空家等対策の推進に関する特別措置法」



空家を管理・活用しよう

空き家を所有した場合は、定期的な見回りや点検、通風、修繕を行うなど建物の維持管理をすることが重要です。継続的に行うことで、変化に気づきやすくなり、早めに対処することができま。国土交通省が公開している「空き家管理チェックリスト*2」に、必要な対策がわかりやすくまとめられています。参考にしながら継続的な維持管理を行いましょう。

*2「空き家管理チェックリスト」
(国土交通省)

(参考) 狭い道路に面した古い木造住宅の解体費補助
大阪市空家利活用改修費補助事業

早めの相談、早めの対策

管理、利活用のポイントは、「自分で判断しない」「不必要な情報に振り回されない」「わからないことをそのまま相談する」。早めに相談し、建物の維持管理をしっかりとしておくことで、焦らず判断するための時間が確保できます。

所有者が複数いる場合には共有を解消しておいた方が良いでしょう。家という財産を共有していると、争いが起きる可能性が高くなります。家財等の残置物を減らす、片付けておくことも欠かせません。相続する、売却する、解体する場合などはそれぞれに税金もかかります。控除特例や軽減措置がないか調べ、公的な補助金の活用も検討してください。

*3 大阪 空き家ホットライン

大阪市 空き家相談ホットライン
電話・0677131375

大阪市 空家相談



おひとりさま女性と住まい

追手門学院大学准教授 葛西リサくずにし

1. 不安定化する高齢期の住まい

戦後しばらくの間、持家所有は、事実上、高齢期の社会保障としての役割を果たしてきた。いまや、全住宅ストックに占める持家の割合は6割、高齢者に限ってみれば、それは8割を超える。持家さえあれば、生涯住むところには困らない。

多くの国民がそう信じて疑わなかった。それを煽るように、政府は、住宅ローン規制の緩和やローン減税など、持家取得を促進するための制度を積極的に推し進めてきた。こういった方針が円滑に機能した背景には、長期ローン返済に耐えうる安定雇用とそれを支える家族の形成、つまり婚姻率の恒常的な上昇があった。

しかし、これら前提条件が崩壊した社会では当然、持家需要は鈍化する。

2000年代以降、世帯の多様化や雇用の不安定化など、社会構造の変化に伴う新たな住宅問題が広範に確認されるようになった。戦後の住宅政策の主要なターゲットであった標準世帯は減少し、その一方で単身世帯が増加している。そのなかには、不安定就労に従事する、いわゆる非正規シングルや低年金の独居高齢者なども数多く含まれる。離婚率の上昇により貧困率の高いひとり親世帯も増加傾向にある。

わが国の低所得者向け住宅政策は、一貫して公営住宅の直接供給にゆだねられてきた。但し、これについては以下のような欠点がある。

まず、供給量の絶対的な不足と立地の偏在という課題がある。統計的に見れば、空室はあるが、その多くが老朽化や利便性の悪さといった課題を有している。

「家賃が安いから我慢しろ」という意見も挙がりそうだが、そこで仕事が見つかるのか、転校してそこに馴染めるのか。転居による生活問題の発生が更なる福祉ニーズを誘発することも視野に入れておく必要がある。

さらに、公営住宅法が単身者を事実上排除してきたことの弊害がある。1951年に制定された公営住宅法は、当初、家族世帯をターゲットにしていた。世帯構造の変化を受けて、2012年の法改正時には、同居親族要件を撤廃、自治体が独自の裁量で入居者の属性を選定できるようになった。とはいえ、未だ、多くの自治体が60才未満の単身入居を認めてはいない。

2. 女性と住まい

女三界に家無しという言葉がある。これは、幼少期は父親に、結婚してのちは夫に、老いてから

は子に従い、この広い世界のどこにも身を落ち着ける場所がないという様を示したものである。この言葉どおり、私たちの社会は、女性が住宅消費者となることを想定してはこなかった。女性は結婚という手段により住宅を確保するものという社会通念があったためである。

しかし近年、生涯未婚率や離婚率の上昇により、婚姻は、もはや女性の居住保障としての機能していない。

1980年代以降、女性の高学歴化、専門職化は急速に進行し、経済的に自立する女性は大幅に増えた。株式会社リクルートが、2021年、首都圏新築マンション購入者7,289人を対象に実施した調査によれば、シングル女性の回答が全体の1割強と2001年の調査開始以来最高を記録した。かつては、女性というだけで融資が下りないという時代もあったが、近年では、多くの金融機関が女性向けの住宅ローン商品を展開している。

これらの状況を見るかぎり「女は三界に家なし」という言葉はすでに「死語」と受け流される感がある。しかし、活況な住宅需要のその影で、貧困の女性化はじわじわと広がっている。女性の就業率は上昇したとはいえ、多くが、非正規職に甘んじている。未だ女性の平均所得は男性の約7割と低い。就職難に喘いだ、1970年から1982年生まれの水戸期世代は人口の6人に1人、すでに中年期に差し掛かっている。

3. 住宅供給の新しいカタチ

住宅に困る人が増える一方で、空き家や空室が増えている。両者を賢くつなげば、SDGsの時代にふさわしい住宅供給が可能となるのではないか。そう考える人は多いだろう。とはいえ、民間の賃貸住宅は利益を追求するための商品であり、市場価格での取引が基本となる。一方個人が所有し、使つあてのない空き家は約4割あるという。思い入れのある住宅を「商売」ではなく、「社会貢献」に使つてほしいと願う所有者もいる。そういった物件を発掘できれば、低家賃住宅の供給が実現できるかもしれない。事実、2024年には、神戸にあるNPOが地元企業から元社員寮を借用して40室の女性と子どものためのシェアハウスを開設した。プライバシーが確保された美しい居室を出ると、キッチンや食堂など豊かな共有空間が複数配置されている。そういった住まいが地域にあれば、おひとりさまでも孤立せずに楽しく生活することができるかもしれない。

一方、政府はこういった民間の工夫や努力に依存している場合ではない。これまで疎かにしてきた賃貸住宅政策に本腰を入れる必要がある。さもなくば、近い将来、単身者の居住貧困は確実に暴露することになるだろう。

住まいを買う・建てる・建て替える・解体する

制度名称	制度概要	お問い合わせ
大阪市新婚・子育て世帯向け分譲住宅購入融資利子補給制度	初めて住宅を取得する新婚世帯・子育て世帯を対象に、住宅ローンの利子の一部を補助します。なお、予算の範囲内で先着順に受付します。申込みにかかる資格要件につきましては窓口までお問い合わせください。	大阪市都市整備局 住宅支援受付窓口 (住まい情報センター4階) ●TEL:6356-0805●FAX:6356-0808
大阪市子育て安心マンション認定制度	‘子育てに配慮した仕様’と‘子育てを支援する環境’を備えた良質なマンションを認定し、その情報を大阪市ホームページ等で広く情報発信していきます。	大阪市都市整備局 安心居住課 ●TEL:6208-9648●FAX:6202-7064
大阪市防災力強化マンション認定制度	耐震性や耐火性等建物の安全性に関する基準に適合することに加え、被災時の生活維持に求められる設備・施設等の整備、住民による日常的な防災活動等により防災力が強化されたマンションを認定し、広く情報発信していきます。	
民間老朽住宅建替支援事業	集合住宅への建替建設費補助	重点対策地区において、昭和56年5月31日以前建築の建物を集合住宅(マンション・アパートなど)に建替える場合、建替費用の一部を補助します。
	隣地を取得した戸建住宅への建替建設費補助	対策地区において、未接道敷地や狭小敷地を解消するために隣地を売買で取得した敷地において、昭和56年5月31日以前建築の建物を戸建住宅に建替える場合、設計・解体費用等の一部を補助します。
	狭い道路に面した古い木造住宅の解体費補助	対策地区において、幅員4m未満の道路に面する昭和25年以前建築(重点対策地区においては、幅員6m未満の道路に面する昭和56年5月31日以前建築)の木造住宅を解体する場合、解体費用の一部を補助します。
防災空地活用型除却費補助制度	重点対策地区において、幅員6m未満の道路に面する昭和56年5月31日以前建築の木造住宅を解体し、跡地を災害時の避難等に役立つ防災空地として活用する場合、解体費用及び空地整備費用の一部を補助します。 ※本制度を活用して防災空地を整備した場合、土地の固定資産税・都市計画税が非課税になります(整備の翌年以降)。	大阪市都市整備局 密集市街地整備グループ ●TEL:6208-9235●FAX:6202-7025 ※重点対策地区の詳細はお問合せください。

住まいを改修する

制度名称	制度概要	お問い合わせ
大阪市耐震診断・改修補助事業	一定の要件を満たす戸建住宅等の所有者等に対して、耐震診断・耐震改修設計・耐震改修工事・耐震除却工事に要する費用の一部を補助します。また、木造住宅の所有者等に対して耐震事業者の情報を提供しています。	
大阪市空家利活用改修補助事業	空家の利活用に向けた安全で良質なストックへの改修を促進するため、住宅の性能向上に資する改修工事や地域まちづくりに資する用途への改修工事等に要する費用の一部を補助します。	大阪市都市整備局 耐震・密集市街地整備受付窓口 (住まい情報センター4階) ●TEL:6882-7053●FAX:6882-0877
マンション耐震化緊急支援事業	一定の要件を満たすマンションの所有者や管理組合などに対して、耐震診断・耐震改修設計・耐震改修工事に要する費用の一部を補助します。	
ブロック塀等撤去促進事業	道路等に面した一定の高さ以上のブロック塀等の撤去および軽量フェンス等の新設工事に要する費用の一部を補助します。	
大阪市子育て世帯等向け民間賃貸住宅改修促進事業	LDK化や断熱改修、ユニットバスの新設・改良工事等、子育て世帯等の入居に資する改修工事を行う民間賃貸住宅のオーナーに対して、改修工事費の一部を補助します。	大阪市都市整備局 民間住宅助成グループ ●TEL:6208-9226●FAX:6202-7064
大阪市住宅省エネ改修促進事業	既存住宅における省エネ性能を向上するため、一定の要件を満たす窓の断熱改修等(内窓設置・外窓交換等)とそれらに併せて実施する躯体等(天井、屋根、壁又は床)の断熱改修、設備等の省エネ改修工事費の一部を補助します。	大阪市都市整備局 民間住宅助成グループ ●TEL:6208-9228●FAX:6202-7064
大阪市地域魅力創出建築物修景事業(修景に関する無料相談など)	建物の修景の促進により地域魅力の創出を図るため、「修景相談」と「修景補助」を実施するとともに、修景された建物等を活かした「魅力発信等」に取り組んでいます。まずはお気軽に建物の修景についてご相談ください(無料)。	大阪市都市整備局 まちなみ環境グループ ●TEL:6208-9631●FAX:6202-7064
高齢者住宅改修費給付事業	介護保険制度の居宅介護(介護予防)住宅改修費の支給を受ける方が属する世帯等で、生活支援・介護予防の観点から真に住宅改修が必要と認められる世帯の住宅改修費用の一部を給付します。	各区保健福祉センター 保健福祉課
重度心身障がい者(児)住宅改修費給付事業	在宅の重度の身体・知的障がい者、難病患者等の方が、日常生活上の障がいの除去または軽減に直接効果のある改修工事を行うとき、工事費用の一部を給付します。所得制限があります(ただし、介護保険制度が適用される方は本制度の対象となりません)。なお、必ず事前に申請が必要です。	

分譲マンション管理組合の方へ

制度名称	制度概要	お問い合わせ
分譲マンション勉強会支援アドバイザー派遣制度	分譲マンションの管理組合等が実施する勉強会を支援するため、講師として一級建築士や弁護士等の専門家を無料で派遣し、一般的なアドバイスをを行います。	
分譲マンション管理適正化支援アドバイザー派遣制度	築30年以上で管理に課題を抱える分譲マンションの管理の適正化を支援するため、マンション管理士等の専門家を無料で派遣し、解決に向けたアドバイスをを行います。	
分譲マンション長期修繕計画作成費助成制度	長期修繕計画の作成又は見直しを行う管理組合に対して、作成費用の一部を補助します。補助率:補助対象となる経費の1/3 補助限度額:1件あたり30万円	大阪市都市整備局 住宅政策グループ ●TEL:6208-9637●FAX:6202-7064
分譲マンション再生検討費助成制度	再生(改修や建替等)に向けた検討を行う管理組合に対して、検討費用の一部を補助します。補助率:補助対象となる経費の1/3 補助限度額:1回あたり60万円	
分譲マンション管理計画認定制度	管理運営状況や長期修繕計画など、マンションの管理計画が一定の基準を満たす場合、「マンションの管理の適正化の推進に関する法律」に基づく認定が受けられます。	
大阪市マンション管理支援機構	公共団体や、建築・法律等の専門家団体等が連携して、分譲マンションの管理組合を支援します。登録組合には、セミナーの開催案内や情報誌等を無料で送付します。	大阪マンション管理支援機構事務局 (住まい情報センター4階) ●TEL:4801-8232●FAX:6354-8601

借りる・買う・建てる・建て替える

大阪市住まいのガイド

紹介している大阪市の公的賃貸住宅や各種制度について、より詳しくお聞きになりたい方は各窓口にお気軽にお問合せください。



「おおさか・あんじゅ・ネット」からもそれぞれの制度をご覧ください。

空家の利活用を応援します!! 「空家利活用改修補助事業」実施中!!

補助要件

- 平成12年以前に建築された戸建住宅または長屋建住宅であること
- 不動産市場に賃貸用または売却用として流通しておらず、3か月以上空家であること
- 改修により一定の耐震性を確保すること、又は耐震性を有すること
- 利活用事例として、大阪市が情報発信することにより承度できることなど



改修前



改修後

大阪市 空家 補助

検索



補助の種類	住宅再生型	地域まちづくり活用型
補助対象者	空家所有者、空家取得予定者、賃借予定者 等	非営利団体(NPO法人、社会福祉法人、公益法人等) 等
補助内容	省エネ化やバリアフリー化といった、住宅の性能向上に資する改修工事費用の1/2(最大75万円)※	子ども食堂や高齢者サロンといった、地域まちづくり活動の場として活用するために必要な改修工事費用の1/2(最大300万円)※

※上記以外にインスペクション(既存住宅状況調査)や耐震診断・設計、耐震改修工事に要する費用にも補助があります。
問合せ:大阪市都市整備局 耐震・密集市街地整備 受付窓口(住まい情報センター4階)【電話】6882-7053 【FAX】6882-0877

住まいを借りる(公的賃貸住宅等)

- **市営住宅** ・住宅に困っておられる所得の低い方々向けの賃貸住宅です。原則として大阪市内にお住まいの方が対象です。
・収入基準は、一般世帯で158,000円以下、高齢者・障がい者世帯等で259,000円以下(月額所得額)となります。

募集種別(募集時期)	概要	お問い合わせ
定期募集等【抽選】 (例年7月上旬、11月上旬、2月上旬)	収入・同居親族等の条件があるほか、一般世帯、(仮称)新婚・若者夫婦・子育て世帯、単身者向け等、各申込区分により申込資格を設定しています。一部の申込区分では、市内在勤の方も申込みができます。	市営住宅募集センター募集担当* ●TEL:6882-7024 ●FAX:6882-7051
福祉目的募集【抽選】 (例年5月上旬)	ひとり親(配偶者のない方とその子ども(20歳未満)のみで構成する世帯)、高齢者(60歳以上)および障がい者(障がい者手帳(身体・精神・療育)等を所持していること)の方々が対象であり、各申込区分により申込資格を設定しています。申込書類は各区保健福祉センターで配布します。	ひとり親住宅/大阪市子ども青少年局 子ども家庭課 ●TEL:6208-8035 ●FAX:6202-6963 高齢者向け住宅/大阪市福祉局 地域包括ケア推進課 ●TEL:6208-8060 ●FAX:6202-6964 障がい者向け住宅/大阪市福祉局 障がい福祉課 ●TEL:6208-8081 ●FAX:6202-6962
随時募集【先着順、一部抽選】	定期募集等において、応募者が募集戸数に満たなかった住戸について、先着順で随時募集を行っています。募集住戸の追加[例年、年3回(4月・8月・12月)]があり、追加住戸については、抽選で入居者を決定します。	市営住宅募集センター募集担当* ●TEL:6882-7024 ●FAX:6882-7051

- **中堅層向け住宅** 公営住宅の収入基準を超えている方等、中堅所得者向け賃貸住宅(先着順)です。大阪市内にお住まいの方も申し込みができます。
- **その他の公的賃貸住宅**

住宅種別		お問い合わせ	管理者	お問い合わせ
大阪市管理	市営すまいりんぐ(子育て応援型)・市営すまいりんぐ・市営特定賃貸住宅・市営再開発住宅	市営住宅募集センター募集担当* ●TEL:6882-7012 ●FAX:6882-7051	大阪府住宅供給公社	大阪府住宅供給公社募集グループ ●TEL:6203-5454
大阪市住まい公社管理	公社一般賃貸住宅・公社すまいりんぐ	大阪市住まい公社募集担当 ●TEL:6882-9000 ●FAX:6882-7021	都市再生機構(UR都市機構)	UR梅田営業センター●TEL:6346-3456 空室情報フリーダイヤル:0120-23-3456

*市営住宅募集センター募集担当とは、大阪市営住宅指定管理者大阪府住宅供給公社市営住宅募集センター募集担当のことです。

民間賃貸住宅

制度名称	制度概要	お問い合わせ
セーフティネット住宅登録制度	低額所得者や高齢者、障がい者、子育て世帯等の住宅の確保に特に配慮を要する方の入居を拒まない住宅として、大阪市内に登録された民間賃貸住宅を、以下のサイトで検索できます。 (セーフティネット住宅情報提供システム)https://safetynet-jutaku.mlit.go.jp/guest/index.php	大阪市都市整備局 安心居住課 ●TEL:6208-9222 ●FAX:6202-7064
サービス付き高齢者向け住宅登録制度	高齢者が安心して暮らすことができる住宅として、大阪市内に登録された住宅を、以下のサイトで検索できます。 (サービス付き高齢者向け住宅情報提供システム)https://www.satsuki-jutaku.mlit.go.jp/	大阪市都市整備局 安心居住課 ●TEL:6208-9648 ●FAX:6202-7064
大阪あんぜん・あんしん賃貸住宅登録制度	高齢者、低額所得者、障がい者、外国人、子育て世帯等の入居を拒まない賃貸住宅や、その仲介を行う協力店、入居の支援を行う団体、相談の窓口等が、以下のサイトで検索できます。 (あんぜん・あんしん賃貸検索システム)http://sumai.osaka-anshin.com/	大阪府 居住企画課 ●TEL:6210-9707 ●FAX:6210-9712

大阪市立 住まい情報センターのご案内

●住まいに関するご相談をお受けしています **無料**

■住まいの一般相談（随時／窓口相談・電話相談）

公的賃貸住宅などの住まい探しをはじめ、住まいを購入するときや建てる際の一般的な注意点、分譲マンション管理に関する情報や大阪市を中心とした住宅施策などに関するご質問に、窓口または電話で相談員が対応します。まず相談内容をお聴きして、問題点の整理・解決のために必要な知識や情報を提供します。英語、中国語、韓国・朝鮮語にも対応します。（外国語対応は17時まで）

相談専用電話 (06) 6242-1177

■住まいの専門家相談（予約制／面接相談）ご予約は30日前からお受けしています。

お申込みに際しては、相談員が一般相談で内容をうかがってから予約します。詳しくはお問い合わせください。

専門家相談日時	内容
住まいの法律 おおむね 毎週土曜日 (10時～13時30分)	借家・借地・土地・建物・相続等に関する法律上の相談(弁護士)
住まいの資金計画 おおむね 月1回土曜日 (10時30分～12時)	住宅取得やローン返済、高齢期の住まいと暮らしに関する資金計画等(ファイナンシャルプランナー)
建築・リフォーム おおむね 隔週土曜日 (10時～13時)	建築設計や施工上の問題・建築関係法令等(建築士)
分譲マンション(法律) 月1回日曜日 (13時～16時)	管理組合運営・管理規約等に関する法律上の相談(弁護士)
分譲マンション(管理一般) おおむね 毎週木曜日 (14時～18時)	管理組合運営・管理規約・長期修繕計画等に関する相談(マンション管理士)

■連携機関による定期相談（面接相談）

（公社）大阪府建築士会による建築相談：
毎週日曜日13時～16時（受付は当日の12時30分～15時30分）
※12時30分に相談を受ける順番の抽選があります。

近畿税理士会による税務相談（予約制）：
毎週土曜日（但し、2・3月を除く）13時～16時
（TEL.06-6242-1177で予約受付）

インフォメーション



交通アクセス

- Osaka Metro谷町線・堺筋線、阪急電鉄「天神橋筋六丁目」駅下車3号出口直結
- JR大阪環状線「天満」駅から北へ約650m
- お車でお越しの場合は阪神高速道路「守口線」長柄出口 都島通り経由、約500m

開館時間

- 4階 住情報プラザ（相談・ライブラリー）
平日・土曜日／9:00～19:00
日曜日・祝日／10:00～17:00
- 3階 ホール／5階 研修室・会議室
平日・土曜日／9:00～21:00
日曜日・祝日／9:30～17:00

休館日

- 火曜日（祝日の場合は翌日）
- 祝日の翌日（日曜日、月曜日の場合を除く）
- 年末年始（12/29～1/3）
- ※上記のほか臨時休館する場合があります。

〒530-0041 大阪市北区天神橋6丁目4-20 大阪市立住まい情報センター4階
TEL.06-6242-1160 FAX.06-6354-8601
おおさか・あんじゅ・ネット <https://www.osaka-angenet.jp/>



4階 住まいのライブラリー



●住まいのライブラリーで図書・雑誌などを利用できます

住まいやくらし、大阪に関する図書、建築本や雑誌、機関誌、ミニコミ誌、企業広報誌、絵本などを自由に閲覧していただけます。また、図書の貸し出しも行っていただけます（一部を除く）。**無料**

●ホール・研修室をイベントや展示会・サークル活動・会議・研修会の場としてご利用いただけます **有料**

3階 ホール



定員：椅子のみの場合／300席（常設194席）
机利用の場合／150席
※控え室もあります。

5階 研修室



定員：机利用の場合／常設54席
椅子のみの場合／70席
※研修室は区切って、少人数でもご利用いただけます。

大阪市立 住まい情報センター セミナー・イベントガイド 2025年

※やむを得ない状況により、定員の変更やセミナーを中止する場合がございます。その場合は「おおさか・あんじゅ・ネット」等でお知らせします。

住まい情報センター 主催イベント

住まい情報センターが主催するセミナー・イベントです

■住まいの基礎知識

◎住まいを購入する(全9回)

第1回「住まいのお金編① 「資金計画と住宅ローン」

個別相談のみ
当日抽選

- 日時:4月19日(土)13:30~15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:NPO法人 日本FP協会大阪支部所属FP
- 定員:会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)
- 個別相談:定員4組(事前申込要)

第2回「住まい探し編「はじめての住宅購入 ~自分に合った住まい探し~」

- 日時:5月10日(土)13:30~15:30
- 場所:3階ホール
- 講師:(一社)大阪府宅地建物取引業協会研修
インストラクター
- 定員:会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)

第3回「戸建て住宅編「戸建て住宅を購入する」

第4回「住まいの設計編「住まいをつくる/ リノベーションする」

- 日時:5月24日(土)
- 第3回 13:30~15:00
- 第4回 15:15~16:45
- 場所:3階ホール
- 講師:第3回(一社)大阪府宅地建物取引業協会
研修インストラクター
- 第4回(公社)日本建築家協会 近畿支部
- 定員:会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)
- ※どちらかひとつでもご参加いただけます。

第5回「分譲マンション編①「分譲マンション を購入する」

第6回「分譲マンション編②「分譲マンションを リフォームする前に知っておくべき基本事項」

- 日時:6月7日(土)
- 第5回 13:30~15:00
- 第6回 15:15~16:45
- 場所:3階ホール
- 講師:第5回(一社)大阪府宅地建物取引業協会
研修インストラクター
- 第6回(公社)大阪府建築士会
住宅を設計する仲間達
- 定員:会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)
- ※どちらかひとつでもご参加いただけます。

第7回「住まいの契約編①「重要事項説明書」

第8回「住まいの契約編②「契約書」

- 日時:6月21日(土)
- 第7回 13:30~15:00
- 第8回 15:15~16:45
- 場所:3階ホール
- 講師:第7回 国土交通省 近畿地方整備局
- 第8回(一社)大阪府宅地建物取引業協会
研修インストラクター
- 定員:会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)

■万博記念展「大坂から大阪 住まいのか・た・ち」関連企画 ◎連続講座「大坂、都市居住文化の醸成」 第1回「知らなかった!大坂蔵屋敷あれこれ」

- 日時:5月17日(土)13:30~15:00
- 場所:3階ホール
- 講師:植松清志(大阪くらしの今昔館特別研究員)
- 定員:会場100名(申込先着順)

第2回「江戸時代住友家の本店と抱屋敷」

- 日時:5月31日(土)13:30~15:00
- 場所:3階ホール
- 講師:海原亮(住友史料館副館長)
- 定員:会場100名(申込先着順)

第3回「大阪市がつくった近代住宅」

- 日時:6月14日(土)13:30~15:00
- 場所:3階ホール
- 講師:中嶋節子(京都大学大学院教授)
- 定員:会場100名(申込先着順)
- ※3講座同時にお申込み可能です。
お申込みは第1回開催日の約2か月前からです。

参加申し込み方法

- ウェブサイトからの申し込み
申し込みは開催日の約2か月前からになります。
- はがきまたはFAXで申し込み
記入事項を明記し、下記の住所、FAX番号へお申し込み
みてください。
〒530-8582(住所不要)大阪市立住まい情報センター4F
FAX:06-6354-8601
- 記入事項:イベント名、住所、名前(フリガナ)、年齢、参
加希望日、電話番号、手話通訳希望の有無、個別相
談希望の有無など
- 参加費は特記以外無料、要事前申し込み。申込先着
順の場合は、定員になり次第締切。抽選の場合は、締
切後も定員に満たない場合は引き続き募集します。
- 申し込みの際の個人情報は、主催者で適切に管理し、
イベントに関する連絡、統計データおよびイベント保
険(必要な場合)への加入にのみ利用します。
- 午前8時45分時点で、「暴風警報」が発令されている場
合は中止とさせていただきますが、セミナー開始3時間
前までに解除された場合はセミナーを実施します。
- 手話通訳をご希望の方は開催2週間前までにお問
合わせください。
- オンライン受講を希望される方はウェブサイトからお
申し込みください。

【注 意】

一部のイベントを除き、参加証の発送はありません。
「申込先着順」のイベントにお申し込みいただいた場合は、
イベント開催当日、直接会場にお越しください。「抽選」の
場合に限り、はがきがEメールで当落をお知らせします。

おおさか・あんじゅ・ネット
▶<https://www.osaka-angenet.jp>



あんじゅ読者アンケートに ご協力ください!!

みなさんのお声をさらなる
紙面づくりに活かします。



ぜひご登録ください。

メルマガにご登録頂きますと、
住まい情報センター主催の
イベント情報が登録メールに配信されます。



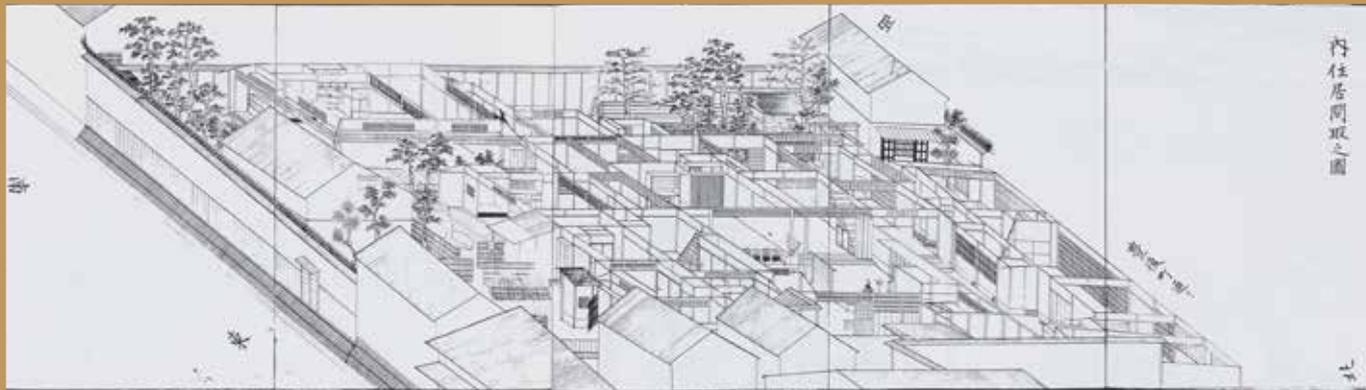
あんじゅ バックナンバーは こちらから



あんじゅ編集通信

1970年大阪万博では工場で生産されたカプセルやユニットを組み合わせた建築、コンピューターを用いた物語作成、ワイヤレスフォン、テレビ電話などの新しい技術が紹介され、また日本初のファストフードやファミリーレストランが営業していたそう。当時小学4年生だった橋爪(少年)先生が「SF小説の中の未来都市みたいだ」と感じたように、訪れた人々は少し先の未来を大阪万博で体験したのでしょうか。そんな近未来的な空間の中、「タカラ・ビューティリオン」に「仏間」があったと取材時に聞いて大変驚きました。「どんなに新しい技術が登場しても先祖を敬う心や人間の基本的な営みは変わらない」そんな思いがあったのではないかと写真を見ながら感じました。

ご協力いただきました皆様本当にありがとうございました。



内住居町家之圖

住友家豊後町家図(住友史料館蔵)



©Expo 2025

大坂から大阪 住まいのかたち

本展は大阪・関西万博を契機として、「大阪を知る」をテーマに万博記念展覧会の第1弾として開催します。

長い歴史の中で、大阪には固有の都市居住文化が醸成され、それらが現在の大阪の礎となっています。本展では現在の大阪の繁栄の礎となっている都市居住文化の400年にわたる変遷を振り返り、その魅力を感じていただくのと同時に未来の都市居住について思いを馳せていただければ幸いです。

- ◆会 期: 令和7年4月26日(土)~7月27日(日)
前半/4月26日(土)~6月9日(月)
後半/6月14日(土)~7月27日(日)
- ◆休 館 日: 毎週火曜日
* 祝日と重なる場合は開館
* 6月11日~13日(展示替のため閉室)
- ◆主 催: 大阪くらしの今昔館
- ◆観覧料: 1,000円(企画展のみ)



大阪市營北日東住宅の丸窓

万博記念展関連企画

連続講座 大阪、都市居住文化の醸成

第1回は5月17日(土)植松清志氏(大阪くらしの今昔館特別研究員)より大坂蔵屋敷、第2回は5月31日(土)海原亮氏(住友史料館副館長)より江戸時代の住友家の本店と抱屋敷、第3回は6月14日(土)中嶋節子氏(京都大学大学院教授)より大阪市がつくった近代住宅についてお話をいただきます。

詳細は本誌p10に掲載しています。



植松清志氏



海原亮氏



中嶋節子氏

万博記念展 ②

都市の祝祭

— 造り物から博覧会へ賑わうまち大阪 — (仮称)

江戸時代の大坂では遷宮や祭の際にまちの中に造り物と呼ばれた趣向を凝らした飾りを行うことがあった。寺社の境内では参詣客へ芸の披露を行ったり、まちの中の即興芝居など、常設でない場所での芸や技、アイデアの披露が繰り広げられ、それらは町に住む人々が文化に触れる貴重な機会であり、活気をもたらしていた。

明治に入り、大阪を会場にした1903年の第五回内国勸業博覧会は明治期最大の国際博覧会となった。博覧会会場では人々の関心を引き付けるため目を引くモニュメントや乗り物が設置され、余興として諸芸の披露も盛んにおこなわれた。その後も大阪では数々の博覧会が開催され、新しい技術の普及や産業の発展、意識の高揚に寄与した。博覧会を迎えるにあたっては町を整備し、国際的都市としての成長を遂げてきた。本展では、近世の造り物の再現から、これまであまり焦点が当てられなかった近代の大阪の博覧会、そして70年万博以降の博覧会までをまちの特別な「都市の祝祭」を表す資料として展示し、その様相をさぐる。

- ◆会 期: 令和7年8月9日(土)~10月19日(日)
- ◆主 催: 大阪くらしの今昔館
- ◆休 館 日: 毎週火曜日*祝日と重なる場合は開館及び9月8日~13日
- ◆観覧料: 1,000円(企画展のみ)

常設展

■商家の賑わい
令和7年4月13日(日)まで

■夏祭りの飾り
令和7年4月20日(日)～9月7日(日)



イベント

ゴールデンウィークは今昔館におでかけ
5月3日(土)～5月6日(火・振休)

■紙芝居
5月3日(土・祝)
①13:30～14:00
②14:30～15:00



■おじゃみ作り
5月4日(日・祝) 13:00～15:00
・材料費:200円 ・当日先着15名

■水引で鯉のぼり飾り作り
5月5日(月・祝)
13:30～15:00
・材料費200円
・当日先着20名



■あてもの
5月5日(月・祝) 10:00～16:00
・当日先着200名(小学生以下)

■バタパタに作りに挑戦しよう!
5月6日(火・振休)
13:00～15:00
・材料費500円
・当日先着15名



万博記念展関連イベント
■カンナ掛け体験
6月29日(日) 13:30～16:00
・人数制限なし



ワークショップ

■組みひもストラップ作り
4月12日(土) 13:30～15:00
・材料費:300円 ・当日先着20名

■桜ストラップ作り
4月13日(日)
13:30～15:00
・材料費:300円
・当日先着16名



■水引でカーネーションを作ろう
4月26日(土) 13:30～15:00
・材料費:300円 ・当日先着20名

■ポスターで紙袋を作ろう
5月10日(土)
13:30～15:00
・材料費:100円
・当日先着20名



■つまみ細工を作ろう
5月11日(日) 13:30～15:00
・材料費:300円 ・当日先着16名

■綿線りと糸紡ぎ体験
5月24日(土)
13:30～15:00
・人数制限なし



■手ぬぐい遊び
6月8日(日) 13:30～15:00
・材料費:200円 ・当日先着16名

■折り染め体験
6月14日(土) 13:30～15:00
・材料費:200円 ・当日先着20名

■版木で多色版画を刷ろう
6月28日(土)
13:30～15:00
・材料費:200円
・人数制限なし



※入場料(常設展)が必要です。
※費用の記述がないものは参加無料です。
※材料費は、当日お支払いください。
※日程等、予告なく変更になる場合がありますので予めご了承ください。
※定員があるイベントは8階受付で12時から参加券を発行します。
※ワークショップは定員に達し次第終了します。

おじゃみ作り

・毎月第1日曜日
13:00～15:00
・材料費:200円
・当日先着15名



簡単折紙

・毎月第4水曜日
14:00～15:30
・材料費:100円



折り紙を折ろう

・6月21日(土) 13:30～15:00
・材料費:100円 ・当日先着16名

鶴のつなぎ折り

・5月18日(日) 13:30～15:00
・材料費:100円 ・当日先着16名

見て聞いて楽しむ

■上方ことば塾
毎月第2日曜日 14:30～15:00

■今昔語り
毎月第3日曜日 14:30～15:00

紙芝居

毎月第1土曜日
14:30～15:00
毎月第3日曜日
11:00～12:00



絵本の時間

毎月第4日曜日 14:30～15:00

芝居語り

毎月第4日曜日
①13:00～ ②14:00～ ③15:00～

大坂について学ぶ

■町家ツアー
平日・土曜日 10:20～
日曜日・祝日 13:10～

■町の解説
毎月第1・3日曜日
13:00～15:00



大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館



【9階なにわ町家の歳時記】
江戸時代の大坂の町並みを実物大で再現。大通りには、風呂屋や本屋、薬屋などが並び、ひととき高い火の見櫓も。路地を抜けると裏長屋の庶民の生活をかきまわることできます。



【8階モダン大阪パノラマ遊覧】
近代大阪の代表的な住まいと暮らしをジオラマや資料で再現。

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 火曜日(祝日は開館) 年末年始 その他臨時休館あり
4月～6月の休館日 4/ 1. 8. 14～19. 22
5/ 13. 20. 27
6/ 3. 10. 17. 24

入場料 一般 600円/団体500円(20人以上)
高・大生 300円/団体200円(20人以上)
※中学生以下、障がい者手帳・ミライロID原本等持参者(介護者1名含む)、市内在住の65才以上無料(要証明書原本提示)
※企画展示の観覧料は別途必要です。

交通機関 ●Osaka Metro谷町線・堺筋線、阪急電車『天神橋筋六丁目』駅下車3号出口より住まい情報センター建物の地階へ連絡、エレベーターで8階へ
●JR大阪環状線『天満』駅から北へ約650m

〒530-0041
大阪市北区天神橋6丁目4-20(住まい情報センタービル8階)
TEL:06-6242-1170 FAX:06-6354-8601





南部の住吉大社や四天王寺から道頓堀周辺までの寺社が中心に取り上げられています。一方の左隻は、大坂城付近から河口に至る川を中心に、川にかかる橋や人々の営みが描かれており、大阪北部から南を俯瞰する構図が特徴的です。

まもなく大阪で万博が開催されます。会場となる夢洲は大阪港に位置する新しい埋立地で、江戸時代にこの海につながる河川を活用し、水運が発達した大坂は「水の都」と評されるような賑わいをみせました。

その様子をうかがい知ることができ、今改めて紹介する「浪華名所図屏風」(八曲一双、縦84・6cm横386・2cm)です。江戸時代の元禄期(一六八八〜一七〇四)頃の大坂の様子が描かれており、右隻には大坂



二扇 一扇 左隻

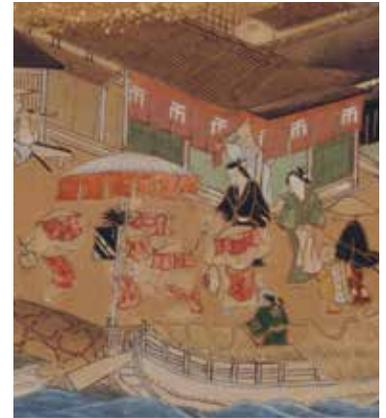
屏風は右隻が春から夏にかけて、左隻が秋から冬へと、屏風絵の伝統に従って四季が変化していきます。特に活気を感じさせる左隻の中央に、大坂城ではなく鴻池屋や淀屋などの屋敷が並んでいた船場地域を据えていることから、注文主はそのような豪商ではないかと指摘されています。

都市の景観を屏風に描く作例として、洛中洛外図がよく知られます。これら京都を主題にしたものは、百点以上が伝わりますが、江戸時代の大坂を描く屏風は十数点しか伝わっていません。その中でも広範囲に及ぶ大坂の景観を、背の低い横長の画面に一双形式で描くこの屏風には類例がなく、大阪市の文化財に指定されています。

今回は左隻を取り上げ、その見どころをご紹介します。

画面全体を真横(方角)で言うと、およそ東西に走るのが、旧淀川の分流です。上流から大川、中之島を挟み南北で土佐堀川と堂島川、再び合流して安治川となります。

第一、二扇の画面下半分は河川が海に流れ込む河口の様子が描かれ、中央の出島は川の出入りを監視する番所があります。川の上には万字紋や桐紋の付いた帆船のほか、大小さまざまな船が往来しています。



住吉踊り

第二扇中央の岸には住吉踊りの一行が見えます。住吉神社の田植え神事にルーツがあるとされる住吉踊りは、白衣に赤前垂れを付け、赤い垂れの付いた菅笠をかぶり、同じく赤い垂れの付く長柄傘の柄を叩きながら歌い踊るものです。一七二三年(正徳三)成立の季語の注釈書『滑稽雑談』によれば「住吉踊、これ住吉神社より出る事無し、大坂長町牧坊(大阪日本橋辺り)より、御祓として、傘に赤き絹を附、菅笠に赤き絹を附、貌を隠して、神いさめとて踊り、初穂をあつむる也」と書かれており、都市部では見世物としての住吉踊りを踊る光景が見られたようです。

第三扇に見られる二つの橋の名前は特定することができません。古地図によれば実際には筑前橋・常安橋・越前橋の三つの橋が架かっているため、そのいずれかであると思われれます。

画面下の中之島には蔵屋敷などの建物が並びます。江戸時代の大坂には全国の物産が集められ、ここで売買されて諸国に運ばれました。中之島には、倉庫兼取引のための

藩邸として蔵屋敷が設けられ、次第に数が増えて廃藩置県の時には一三五邸に及んだとされます。



蔵屋敷

第四扇最下部には、中之島から現在の曽根崎や梅田側の岸にかかる橋が描かれています。橋の名前を特定することはできませんが、中之島から北側の岸へ橋がかけられたのは元禄期のことで、左隻が元禄期以降の景観を描いたものとわかります。

第一、四扇まで、画面上部の遠景に流れているのが長堀川です。この長堀川と西横堀川が交差したところにかけているのが、四



三扇

つ橋（北から時計回りに上繋橋・吉野屋橋・下繋橋・炭屋橋）です。残念ながら昭和に埋め立てられ、現在の姿はみられません。

第四扇には大きな豊の津村御坊（北御堂）および難波御坊（南御堂）があります。織田信長との石山合戦後、本願寺は大坂を退去したのち、一五九一年（天正十九）に豊臣秀吉の指示により京都へ寺基を移します。

津村御坊は、浄土真宗の一派で西本願寺を本山とする浄土真宗本願寺派の寺院です。一五九二年（天正二十）に天満橋南詰付近に集会所が設けられたことにはじまり、一五九七年（慶長二）、町割改革により移転しました。

難波御坊は、浄土真宗の一派で東本願寺を本山とする真宗大谷派の寺院です。一五九二〜九六年（文禄〜慶長元）に摂津国西成郡渡辺に創建された大谷本願寺を前身とし、一五九八年（慶長三）現在の地に移されました。

大坂市の中心を南北に貫く幹線道路である「御堂筋」の名は、両寺院の通称である北御堂・南御堂に由来しています。

第四扇と第五扇にまたがるように描かれているのが淀屋橋です。中之島と船場を結ぶ橋である淀屋橋は、米相場が集まってくる人たちのため、淀屋个庵（一五七七〜一六四三）によってかけられたと伝えられ、橋名はそれに由来しています。

第五扇は船場地区および中之島の東側が描かれています。船場から北側にかかるのは難波橋です。また、大坂城の外堀として開

削された東横堀川にかかる擬宝珠のある橋が高麗橋で、豊臣秀頼によって公儀橋第一号とされました。橋の名前の由来は諸説あり、古代朝鮮半島からの使節を迎えるために造られた迎賓館が元である説や、秀吉の時代に朝鮮との通商の中心地であったためという説などがありますが、定かではありません。



高麗橋

第七扇に描かれる橋は天満橋で、仮装をした一行が橋を渡る様子が描かれています。秀吉による大坂城下町建設にともなってかけられたといわれ、市街地を南北に結ぶ重要な橋でありました。

画面下部には鳥居があり、天満宮が描かれていることがわかります。境内では鼓や三味線に合わせて踊る人や出店、編み笠を被った武士などの参詣者の姿が見られます。第八扇左上には大坂城が大きく描かれています。豊臣秀吉が築いた大坂城は大坂の陣で落城しますが、後に再建されて一六二六年（寛永三）に天守閣が完成します。しかし一六六五年（寛文五）の落雷によって焼失し、一九三一年（昭和六）に至るまで大坂城には天守閣がありませんでした。本屏風にも天守閣は描かれておらず、本作が天守閣焼失後の景観を描いていることがわかります。

大坂城の下には京街道につながる京橋があり、高札場が見えています。第七扇までの至る所に赤く色ついた樹木が配されていますが、第八扇の松にはうっすら白い雪がかかり、季節が秋から冬に変わったことが表現されています。

この屏風は湯木貞一（一九〇一〜一九七）の創業による日本料理店「吉兆」が所蔵したもので、折に触れて座敷を飾ったと伝わっています。

第六扇の中央にかかるのは天神橋です。大名家が身分ある人と思われる行列が橋を渡り、大坂城方向に進んでいます。東横堀川と大坂城の間が上町と呼ばれるところで、豊臣秀吉によって築かれた城下町でした。

「浪華名所図屏風（湯木美術館蔵）は、大阪からしの今昔館万博記念展「大坂から大阪・住まいのかたち」の前期4月26日から6月9日までで展示公開します。

錦絵でみる近代の大阪 「心齋橋鉄橋図」

服部 麻衣 (大阪くらしの今昔館学芸員)



図1 錦絵「心齋橋鉄橋図」 明治6年(1873) 当館蔵

大阪は「八百八橋」と称されたように堀川と橋が多い町でした。中でも心齋橋は、江戸初期に長堀川の開削に尽力した岡田(美濃屋)心齋が私費で架けた木橋で、その名前に由来しています。この橋は明治6年(1873)にドイツから輸入した鉄橋に架け替えられました。当時の大阪で鉄橋の導入は高麗橋、新町橋に続いて3例目と非常に早いものでした。弓型の鉄製トラス橋は長さ36・7m、幅3・9mで、橋脚を設けず川をまたぐ構造が注目を集めました。

今回ご紹介する錦絵は、大阪の浮世絵師・二代長谷川貞信(1848-1940、制作当時は小信)が描いたものです。二代貞信は近代化する町の様子を「開化絵」として錦絵で描きました。この「心齋橋鉄橋図」は架け替え直後の鉄橋と周辺のまち、人々の様子を描いています。橋板はケヤキ材、高欄は白く塗られた鉄製、四隅にはランプが設置されていると説明が添えられ、橋の南東側にはバルコニー付きの新しい建物が見られます。橋を行き交う人力車や乗合馬車を利用する人々、和洋さまざまな髪型や服装の人々からは、変化する時代の勢いを感じ

取ることができます。この鉄橋は明治42年(1909)に石橋に架け替えられ、現在は鶴見緑地公園で「緑地西橋」として保存されています。

この錦絵は4月26日から開催する万博記念展「大坂から大阪 住まいのかた・ち」で展示します(前期展示)。また、常設展示室内「からくり錦絵」では、文明開化による街の変化を紹介しています。造幣寮造幣局、心齋橋の鉄橋、そして梅田のステーション(大阪駅)の3つの風景を、軽快な語りと動く錦絵でお楽しみいただけます。



図2 「心齋橋 北詰」 大阪市立図書館デジタルアーカイブより